



光輝 城

甲府市立城南中学校

学校だより

No. 6-1

H.30.9.20

文責 保坂正樹



全国学力学習調査から



4月17日、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に①教科に関する調査（国語・数学（算数）・理科）と学習意欲や学習方法、生活諸側面に関する質問紙調査が行われました。本校では3年生259名がこの調査に参加しました。

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること、また、学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる目的があります。

本校の分析結果以下に示すとおりです。また、今後の改善の取り組みについて次のようにしていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

教科に関する調査は国語と数学につきましてはそれぞれ、「主に知識に関する問題」Aと「主に活用に関する問題」Bとがあります。

学習状況、生活諸側面に関する質問紙

全体的に、全国・山梨県の平均より高い設問が多く、良好な結果でした。

◇ 城南中の生徒が、全国平均に比べ良好な傾向（約10%以上の差）を示した設問

- Q 質問番号1 自分にはよいところがあると思いますか？
- Q 質問番号4 学校の規則を守っていますか？
- Q 質問番号38 理科の勉強は好きですか？
- Q 質問番号39 理科の勉強は大切だと思いますか？
- Q 質問番号40 理科の勉強はよくわかりますか？



※ 城南中の生徒が、全国や山梨の平均に比べ低調な傾向（約10%以下の差）を示した設問はありませんでしたが、家庭学習の質問事項が、全国平均より低い傾向が見られました。

◇ 重要な質問事項について

- Q 質問番号1 自分にはよいところがあると思いますか？ 全国平均より高く、8割強
- Q 質問番号3 将来の夢や目標を持っている。 全国平均より高く、7割5分程度
- Q 質問番号4 学校の規則を守っていますか？ 全国平均より高く、10割近い
- Q 質問番号5 いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。 全国平均より高く、10割近い
- Q 質問番号6 人の役に立つ人間になりたい。 全国平均より高く、9割5分程度
- Q 質問番号7 朝食を毎日食べていますか？ 全国平均より高く、9割程度
- Q 質問番号14 1日当たりどれくらい家庭学習をしますか？（1時間以上）全国平均より低く、6割強
- Q 質問番号15 家で読書をしますか（30分以上）？ 全国平均より高く、4割程度
- Q 質問番号20 地域の行事に参加していますか？ 全国平均よりやや低く、4割5分程度
- Q 質問番号23 ボランティア活動に参加したことがありますか？ 全国平均と同様、7割5分程度
- Q 質問番号25 新聞を読んでいますか（週1回以上）？ 全国平均と同様、1割5分程度
- Q 質問番号27 数学の勉強は好きですか？ 全国平均とより低く、4割程度
- Q 質問番号38 理科の勉強は好きですか？ 全国平均とより高く、8割弱

教科に関する調査

◇ 全体の概要

- 本校の教科に関する調査の平均正答率は、±5%の範囲内にある。
- 国語A・B、数学B、理科は全国平均をやや下回っている。
- 数学Bは、他のものに比べ低い。



◇ 各教科の分析結果

— 国 語 —

①国語A（主として知識）

「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の問題の中で、短答式の問題になると、無答率が増加する傾向は全国も同じだが、本校ではその割合が全国に比べて高くなっていった。漢字の書きの問題で、正答率が全国に比べて著しく低いだけでなく、無答率も高かった。それに対して漢字の読みの問題は、全国に比べて正答率が高かった。また、行書の基礎的な書き方を答える問題や目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文章を書く問題の正答率が低かった。

②国語B（主として活用）

成果を領域別にみると、書くこと、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の数値が全国を上回っている。本校のこれまでの教科研究の中で、書くことへの苦手意識や、基礎基本となる語彙の獲得が本校生徒の課題であることを共通理解し、その課題を克服すべく、自分の考えを書く機会を多く設けたり、国語辞典を活用したりする中で、少しずつ力がついてきたと考えられる。

ただし、全国と比較して、正答率に差はないものの、無答率の高い問題を見てみると、どちらも記述式の問題であった。このことから、解けない問題に対して、解答しようとせずに諦めてしまっている傾向がみられる。

◇ 課 題

- 短答式及び記述式の問題の無答率が高く、条件が複数になると、満たせていない条件がある。
- 漢字の読みはできているが、書きになると無回答が増える。
- 文法事項の知識が定着しておらず、「主語を明らかにし」などの問題の意味が理解できていない。
- 既習事項を活用しようとする姿勢は育ちつつあるがその土台となる基礎基本が定着していない。

— 数 学 —

- 数学Aにおいて、全校・県内と比較し正答率が同等もしくは上回る問題として、「数と式」領域の基本的な計算、「関数」領域の座標を取る、グラフから変域を答える問題である。要因として、基礎基本の定着を意識し、計算技能習得のために時間をかけた指導を行っていること。視覚的な指導を心がけ、ICTを活用した指導を行ってきたことが、成果につながっていると考えられる。
- 数学Bにおいて、全校・県内と比較し正答率が同等もしくは上回る問題として、問題文から数量関係を読み取り、式に表す問題である。数量関係を読み取り式化する指導に時間をかけ、丁寧に行ってきたことが成果につながったと考えられる。

◇ 課 題

- 数学Aにおいて、全校・県内と比較し正答率が大きく下回る問題として、除法の含まれる計算の問題、知識として考える問題を式に表す問題である。小学校からの学習集事項として苦手意識が強いこと、自分の考えを数学的な表現として式に表すことに課題がある。
- 数学Bにおいて、全校・県内と比較し正答率が大きく下回る問題として、「図形」領域の論証問題である。長い問題文を読み取り理解すること、証明の流れをつかみ、根拠を明らかにして説明につなげることに課題がある。



光輝 城南

甲府市立城南中学校

学校だより

No. 6-2

H.30.9.20

文責 保坂正樹

一 理科 一

- 問題によっては、20%近くの生徒が無回答のものがあり、全国・県内の平均に比べて高い数値となっている。
- 正答数分布グラフから全国・山梨県と城南中を比較すると最も多い点数帯に本校の生徒は少なく正答率の低い生徒の人数が全国・県と比較し非常に多く、正答率が高い生徒と低い生徒の二極化が顕著である。
- データや公式を使用して、答えを導き出すことへの正答率が低い。

◇ 課題

- 難易度の高い問題や計算やグラフの問題などに対し、無解答が多く答えを導き出すをあきらめてしまう傾向にある。
- 正答率が低い生徒も多く、生徒の学力の差が大きい。

◇ 今後の対策

★ 生活面

- 学校生活の中で、自己有用感や自己肯定感を味わう場面を意図的につくっていく。
- 授業はもちろんだが、行事での一人一人のがんばりを「認め、褒め、励ます」姿勢を続ける。
- 本校の特色の一つである福祉教育をさらに推進する。

★ 学習面

- 授業では、目標（めあて・ねらい）を板書し、ノートに書かせる。
- この時間にどんなことを学習したのかまとめの時間で振り返る。
- 家庭学習が計画的に習慣となるように取り組ませる。

一 国語 一

条件が複数ある記述をさせる場面を設定していく。その中で最後まで取り組もうとする態度を育てる。文法や漢字の書きといった基礎基本の定着を図るような授業実践を継続していく。

一 数学 一

- 除法（分数を含む）の計算指導に時間をかけ、丁寧に行う。
- 自分の考えを式に表したり、説明する場面を指導中で行う。
- 論理的に考え、根拠を明らかにしながら説明ができる指導を行う。
- 課題の提示の仕方の工夫（ICTの活用など）を考え、授業での理解を深めること。さらには、基本技能の定着のために、継続的な計算指導を行う。

一 理科 一

- 基礎・基本の定着を図るような授業実践を行う。
- 難易度が高い問題に対して最後まで取り組む指導や自分の考えを表現しようとする態度を育成する。
- グラフや表などのデータを読み取り、分析をしていく場面を設定していく。

